

三崎會館托兒所

三崎會館には、兒童に關する設備としては、託兒所、幼稚園、兒童遊園、夏期學校とありまして、其他に社會事業として、女中教養所及び徒弟教養所が御座います。

託兒所は大正五年九月十日に設立されましたもので、最初は十三名の兒童しか通つて居りませんでした。保姆三名で擔任して居ります。毎日朝七時から、夕五時半までとし、一日託兒代二錢とおやつ代二錢、總計四錢の費用を子供達に持參させて居ります。お晝飯過ぎには西洋の習慣に従つて、必ずお晝寢をさせる事に致して居りますが、お晝寢は子供自身にとつても身心を休めて大變結構でございますし、保姆達にとりまして、一日一寸の油斷もせず危い子供等につきそふて居りますから、身心の疲勞も多うございいますから、子供の晝寢の時間には、矢張り保姆も休養いたします。西洋の方々は、保姆達の休養と

主任 保坂比露子

いふ事を大層重んじます。休養しなければ、いつもにこやかにして快活に、子供等の相手をする事が中むづかしうございます。

毎年の傾向でございますが、特に今年は甚だしいと思つて居りますのは、託兒所に通ふ子供等がどうも低能に近いやうな子供が多くて困ります。此處は神田でございますから、本所深川邊のやうに、勞働者階級の子供達が來るのがありませんで、此の邊に住んでゐる中流階級の子供達でございます。しかし母親が一日子供の相手をして居る事が出來ない人々でありますから、父親が飲酒家で餘り家庭の事情がよくないとか、或は母親一人であるとか、又母親がタイムリストであつたり、小學校の先生であつたりする人々の子供が多うございます。それにしても、幼稚園に通學して來る子供達は、毎年段違ひに託兒所の子供の性質なり健康状態なりが劣つて居りますので、私共は大いに研究しなければならぬと存じ

ありまして、商店の小僧らしい、きちんとした角帯の連中の見えないのは、ちよつと不思議であります、近頃は商店等の店員は學問が相當に有りますし、神田邊の大商店では、夜學にわざ／＼先生を雇つてしてゐる所さへありますから、そんな關係だらうと存じて居ります。皆は實に熱心に勉強して居ります。

又女中教養所は、大正七年二月七日に始められたものでありまして、火、水、木、金の四日、夜七時から九時半まで教授して居ります。火曜は學科で、一の組は尋常四五年生の程度であり、二の組は實科高等女學校の程度で、珠算、作文、讀書、習字、衛生等を教へます。水曜は、精神修養と、裁縫、木曜も裁縫、金曜は裁物の實地及び理論を教へます。裁縫と看護法とは、常に力を入れて置きまして、裁縫も袴やコート位はとにかく縫へるやうにし、看護法では體溫表のつけ方、吸入のかけ方位は充分出来るやうに教へます。

只今女中教養所に通學してゐます者は、在籍者は二十名ありますが、通學生は十二三名であります。

私共四人先生が居りまして、各科を分擔して教へて居りますが、年齢が一定しませんのと、出席が一定

しませんのと、大いに教授上の困難を感じます。年は十六位から二十三歳位までがとまりでございますが、十六位のは學校に通學した經驗から、未だ學問を忘れてゐませんから、大層進みが早うございますが、年上になるにつれ學校の氣がぬけてどうもうまくゆきません。其の上、今日は奥さんが病氣で休むとか、今晚は來客で來られませんとか、色々の差しつかへがあつて、缺席がちな者はほとんど遅れますから、まるで三人四人と、個人教授のやうな具合に致します。けれども皆熱心でありますから、なかかして連續させて行きたいと存じて居ります。近頃の女中さんは、徒弟と違ひまして、十圓十五圓の月給はもらつてゐますので、却て獎勵にもならうかと、五十錢の月謝をとつて居ります。この夜學校は二ヶ年修業であります、既に四五名の卒業生を出して居ります。

以上述べました事業が、私共三崎會館に於て行はれて居ります。こちらは、基督教主義であり、こので、信者の家庭又は宗教に同情ある人の家庭から、此處へ出入して居ります。精神修養として、聖書をよみ、祈禱をするのを習として居りますので、未だ基督教に理解のない方々があります、ため私共の盡力もひろく及ばず残念に感じて居ります。